

ものを言うテープ

テープレコーダー

磁気^{じき}テープに音を記録し再生するテープレコーダーの前身は、1898年（明治31）にデンマークのポールセンが発明した針金に録音するワイヤーレコーダーです。これは長時間の録音が可能でしたが、ワイヤーの伸びによる音質劣化の問題があり、普及しませんでした。



ワイヤーレコーダー
1940年（昭和15）頃

1928年（昭和3）に、ドイツのフロイマーが磁気記録の方式を、ワイヤーからプラスチックテープに変更してテープレコーダーが誕生しました。

日本では1950年（昭和25）に、東京通信工業（後のソニー）が磁性材料^{じせい}を塗った紙テープのオープンリール型テープレコーダーを発売しました。しかし、1台16万円・重さ35kgと、当時の小学校教員の初任給が約4千円であった時代では、一般には全く売れませんでした。

1968年（昭和43）にコンパクトカセットテープが発売され、1970年代にラジオカセットプレイヤーを各家電メーカーが相次いで商品化したため、テープレコーダーは一般に普及していきました。



ソニーのラジカセ
1970年（昭和45）頃

1988年（昭和63）にカセットテープは8千万本売れていましたが、2012年（平成24）は2百万本と、市場は1/40に縮小しました。しかし、カセットテープは価格が安く、取り扱いが簡易なこともあり、主に高齢層から根強い支持があります。